



目次

- 1. 改訂情報
- 2. はじめに
 - 2.1. 本書の目的
 - 2.2. 対象読者
 - 2.3. 本書の構成
- 3. FullPack版 IM-LogicDesigner 連携 について
 - 3.1. FullPack版 IM-LogicDesigner 連携 とは
 - 3.2. IOWebDOC (iod) 定義 とは
 - 3.3. IOWebDOC (ddl) 定義 とは
- 4. 操作方法
 - 1. レイアウトファイルを作成する
 - 2. ユーザ定義タスクを作成する
 - 3. ロジックフロー定義を作成する
- 5. 付録
 - 1. ユーザ定義タスク

変更年月日	変更内容
2017-08-01	初版
2017-12-01	第2版 下記を追加・変更しました。 <ul style="list-style-type: none">▪ 「設定ファイル」にPDF帳票サーバを使用する場合の設定項目を追加▪ 「WARファイルのデプロイ」を追加
2018-12-01	第3版 下記を追加・変更しました。 <ul style="list-style-type: none">▪ 表記のゆれを訂正
2020-08-01	第4版 下記を追加・変更しました。 <ul style="list-style-type: none">▪ 「設定ファイル」のスタンドアロン構成、分散構成に関するリンク先を変更▪ 「トラブルシューティング」を「IM-PDFDesigner for Accel Platform トラブルシューティング」へ移行
2020-12-01	第5版 下記を追加・変更しました。 <ul style="list-style-type: none">▪ 「はじめに」<ul style="list-style-type: none">▪ 「対象読者」の記述を変更▪ 「本書の構成」の記述を変更▪ 「IM-LogicDesigner 連携 のセットアップ方法」を「IM-PDFDesigner for Accel Platform セットアップガイド」へ移行▪ 「FullPack版 IM-LogicDesigner 連携 について」<ul style="list-style-type: none">▪ 「FullPack版 IM-LogicDesigner 連携 とは」の記述を変更▪ 「操作方法」を追加<ul style="list-style-type: none">▪ 「単票形式のPDF帳票を出力する方法」を「操作方法」へ移行し、構成と記述を変更▪ 「表形式のPDF帳票を出力する方法」を「操作方法」へ移行し、構成と記述を変更▪ 「付録」<ul style="list-style-type: none">▪ 「IOWebDOC (iod) 定義」<ul style="list-style-type: none">▪ 「入力値」の記述を変更▪ 「IOWebDOC (ddl) 定義」<ul style="list-style-type: none">▪ 「入力値」の記述を変更▪ 「その他の操作方法」を追加

変更年月日	変更内容
2022-06-01	<p>第6版 下記を追加・変更しました。</p> <ul style="list-style-type: none">■ 「IM-PDF Designer for Accel Platform IM-LogicDesigner連携」から「IM-PDFDesigner FullPack for Accel Platform IM-LogicDesigner連携」に名称を変更■ 「IM-LogicDesigner 連携」から「FullPack版 IM-LogicDesigner 連携」に名称を変更■ 「FullPack版 IM-LogicDesigner 連携 について」<ul style="list-style-type: none">■ 「IOWebDOC (iod) 定義 とは」に「^」に関する注意を追加■ 「付録」<ul style="list-style-type: none">■ 「IOWebDOC (ddl) 定義」<ul style="list-style-type: none">■ 「入力値」に画像ファイルを指定する際の注意を追加

本書の目的

本書では IM-PDFDesigner FullPack for Accel Platform IM-LogicDesigner連携（以下 FullPack版 IM-LogicDesigner 連携）の機能概要と操作方法について説明します。

対象読者

次の利用者を対象としています。

- FullPack版 IM-LogicDesigner 連携 を利用してPDF帳票の出力処理を作成する方

なお、FullPack版 IM-LogicDesigner 連携 を利用するためには IM-LogicDesigner の機能や仕組みを理解している必要があります。

IM-LogicDesigner の詳細については、「[IM-LogicDesigner ユーザ操作ガイド](#)」を参照してください。

本書の構成

- [FullPack版 IM-LogicDesigner 連携 について](#)
FullPack版 IM-LogicDesigner 連携 の概要について説明します。
- [操作方法](#)
FullPack版 IM-LogicDesigner 連携 の操作方法について説明します。
- [付録](#)
FullPack版 IM-LogicDesigner 連携 が提供するユーザ定義タスクの仕様について説明します。

- FullPack版 IM-LogicDesigner 連携 とは
- IOWebDOC (iod) 定義 とは
- IOWebDOC (ddl) 定義 とは

FullPack版 IM-LogicDesigner 連携 とは

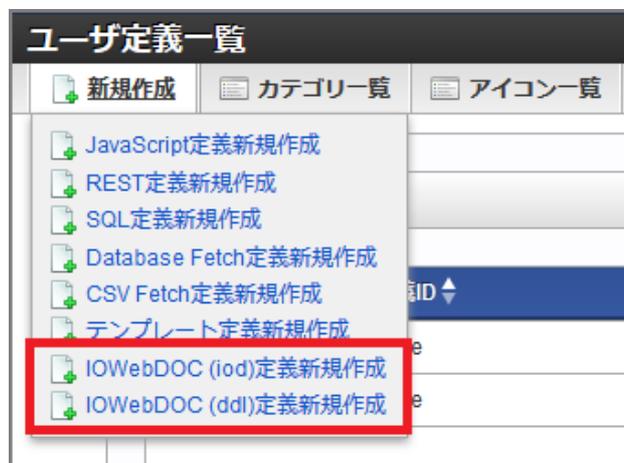
FullPack版 IM-LogicDesigner 連携 とは、PDF帳票の出力処理を簡単に作成できるアプリケーションです。

FullPack版 IM-LogicDesigner 連携 の主な特徴は次の通りです。

- プログラミングの知識がなくても、GUI上で簡単にPDF帳票の出力処理を作成できます。
- IM-LogicDesigner のユーザ定義タスクとして提供されるため、様々なアプリケーションから呼び出すことができます。
- 単票形式と表形式のPDF帳票を出力できます。
- 出力するPDF帳票に文書情報やセキュリティを付与できます。

FullPack版 IM-LogicDesigner 連携 を導入すると、「LogicDesigner」-「ユーザ定義」-「ユーザ定義一覧」画面の作成可能なユーザ定義の一覧に、次の項目が追加されます。

- IOWebDOC (iod)定義新規作成
- IOWebDOC (ddl)定義新規作成



IOWebDOC (iod) 定義 とは

IOWebDOC (iod) 定義 とは、単票形式のPDF帳票を出力するユーザ定義タスクです。

注意

単票形式 IODOC の文字枠では「^」は特別な意味をもちます。

文字枠内で「^」を表示する場合は、「^5E」とする必要があります。

詳しくは、「IM-PDFDesigner for Accel Platform プログラミングガイド」-「「^」の扱いについて」を参照してください。

IOWebDOC (ddl) 定義 とは

IOWebDOC (ddl) 定義 とは、表形式のPDF帳票を出力するユーザ定義タスクです。

レイアウトファイルを作成する

帳票デザインツールを利用して、レイアウトファイルを作成します。

利用する帳票デザインツールの種類、および、レイアウトファイルの拡張子については、次の通りです。

形式	帳票デザインツール	レイアウトファイルの拡張子
単票形式	IODOC	iod
表形式	IOBDOC	ddl



コラム

レイアウトファイルの作成方法については、「[IM-PDFDesigner for Accel Platform プログラミングガイド](#)」-「[レイアウト定義ファイルの作成](#)」を参照してください。

ユーザ定義タスクを作成する

FullPack版 IM-LogicDesigner 連携 を利用したユーザ定義タスクの作成方法について示します。



コラム

ユーザ定義の詳細については、「[IM-LogicDesigner ユーザ操作ガイド](#)」-「[ユーザ定義](#)」を参照してください。

- [IOWebDOC \(iod\) 定義](#) を作成する
 - [新規登録画面を表示する](#)
 - [定義内容を編集する](#)
- [IOWebDOC \(ddl\) 定義](#) を作成する
 - [新規登録画面を表示する](#)
 - [定義内容を編集する](#)

IOWebDOC (iod) 定義 を作成する

新規登録画面を表示する

次の手順で「[IOWebDOC \(iod\)編集](#)」画面を表示します。

1. 「[サイトマップ](#)」-「[LogicDesigner](#)」-「[ユーザ定義](#)」-「[ユーザ定義一覧](#)」をクリックします。

「[ユーザ定義一覧](#)」画面が表示されます。



2. ツールバーの「新規作成」をクリックします。作成可能なユーザ定義の一覧が表示されます。



3. 「IOWebDOC (iod)定義新規作成」をクリックします。

「IOWebDOC (iod)編集」画面が表示されます。



IOWebDOC (iod)編集

ユーザー定義一覧

ユーザー定義共通設定

ユーザー定義ID *

バージョン番号 * 1

ユーザー定義名 *

標準 *	<input type="text"/>
日本語	<input type="text"/>
英語	<input type="text"/>
中国語 (中国)	<input type="text"/>

ユーザカテゴリ *

🔍 検索
📄 新規作成

ユーザーカテゴリID *	<input type="text"/>
ユーザーカテゴリ名	<input type="text"/>

ソート番号 *

アイコン

🔍 選択
🗑️ クリア

入力値

+ string
+ integer
+ date
+ object

boolean
▼
+ 追加
 配下に配置する

📄 JSON入力

配列型にする
🌿 キー名を変更
🎨 型を変更
🗑️ 削除

🗑️ 全削除

返却値

+ string
+ integer
+ date
+ object

boolean
▼
+ 追加
 配下に配置する

📄 JSON入力

配列型にする
🌿 キー名を変更
🎨 型を変更
🗑️ 削除

🗑️ 全削除

IOWebDOC (iod)

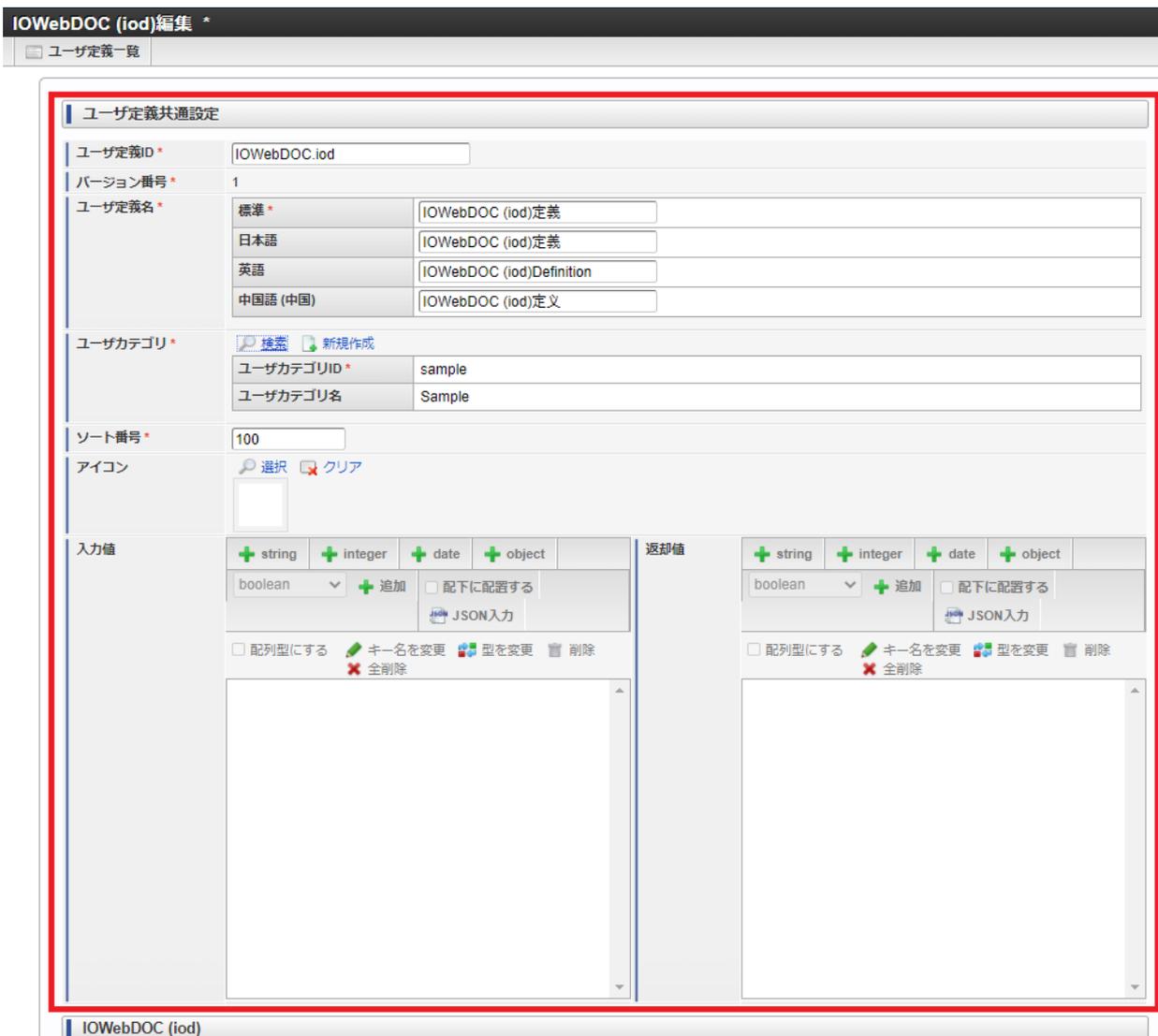
帳票レイアウトファイル *

選択ファイル

定義内容を編集する

次の手順で定義内容を編集し、ユーザー定義を登録します。

1. 「ユーザー定義共通設定」の各項目を入力します。

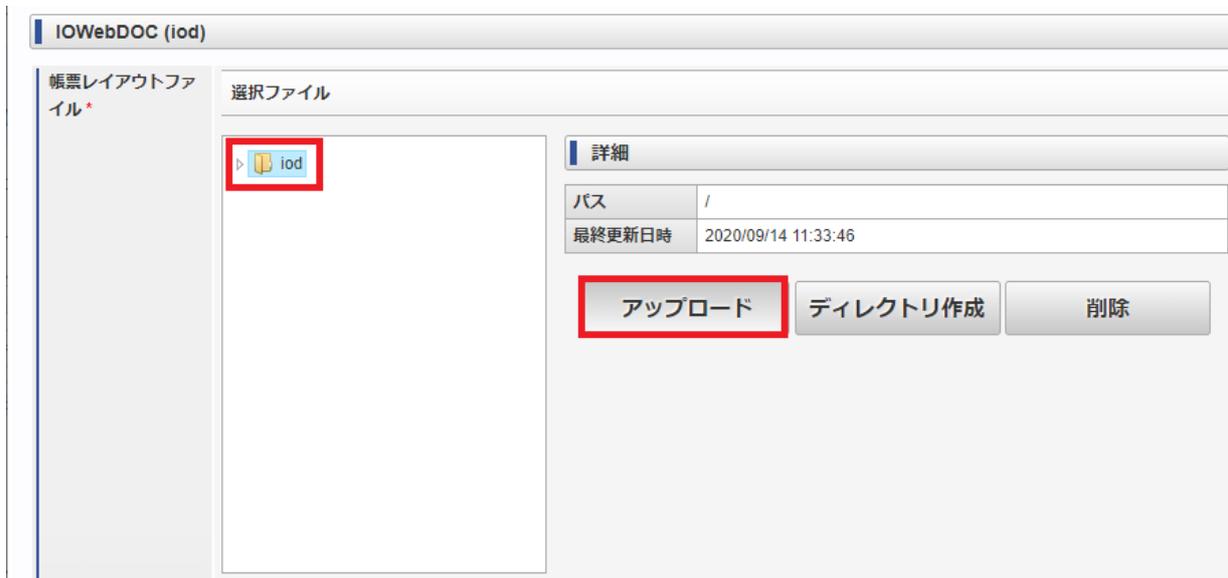


コラム

「入力値」、および、「返却値」は入力できません。レイアウトファイル選択時に自動生成されます。

2. 「IOWebDOC (iod)」 - 「帳票レイアウトファイル」のファイルツリー上でディレクトリを選択し、「アップロード」ボタンをクリックします。

ファイル選択ダイアログが表示されるので、アップロードするファイルを選択します。



コラム

ファイル選択ダイアログで表示されるファイルの種類は .iod （単票形式のレイアウトファイル）のみです。

3. メッセージが表示され、アップロードしたファイルがファイルツリー上に追加されます。



i コラム

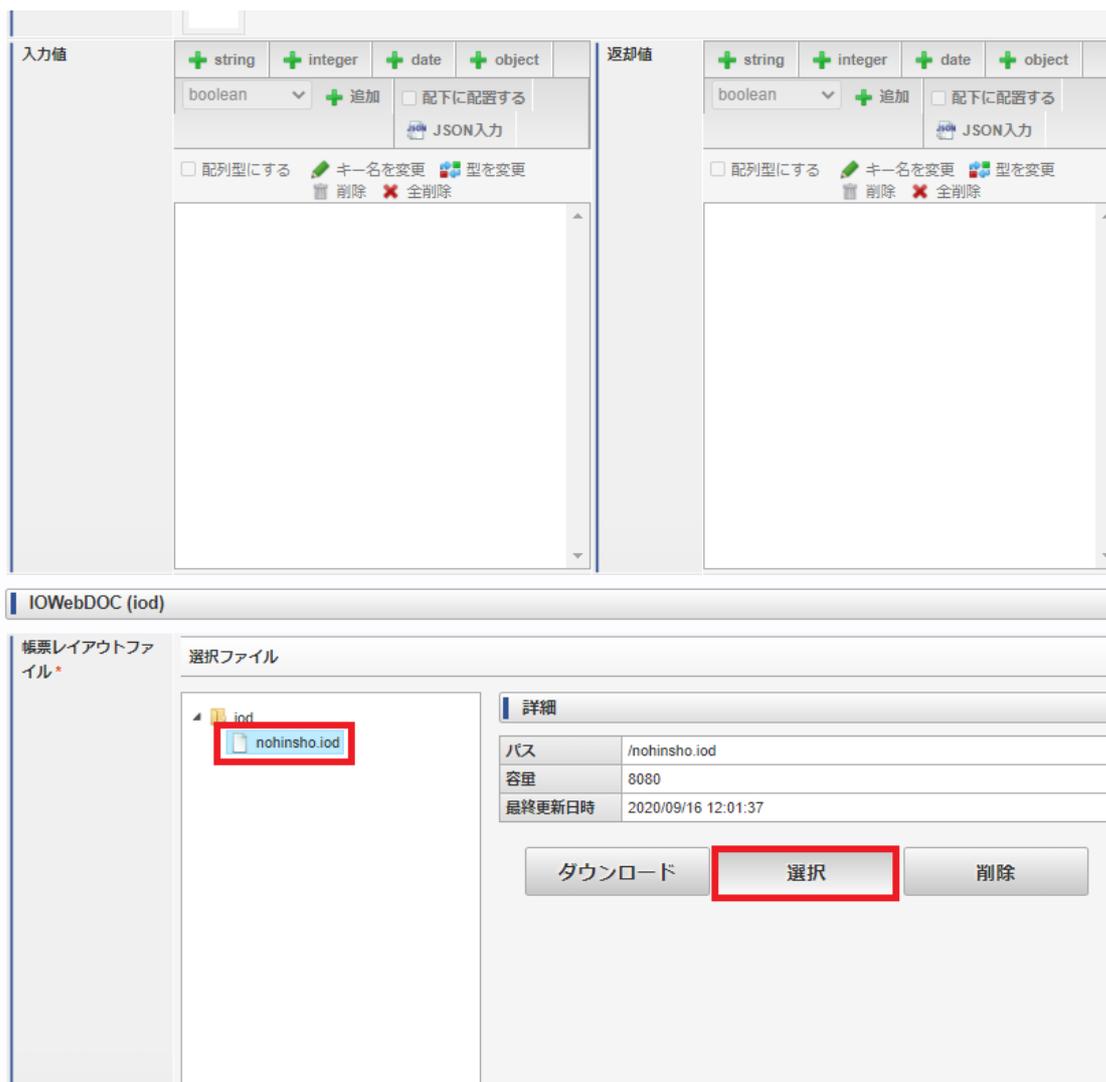
ファイルのアップロード以外に、次の操作が可能です。

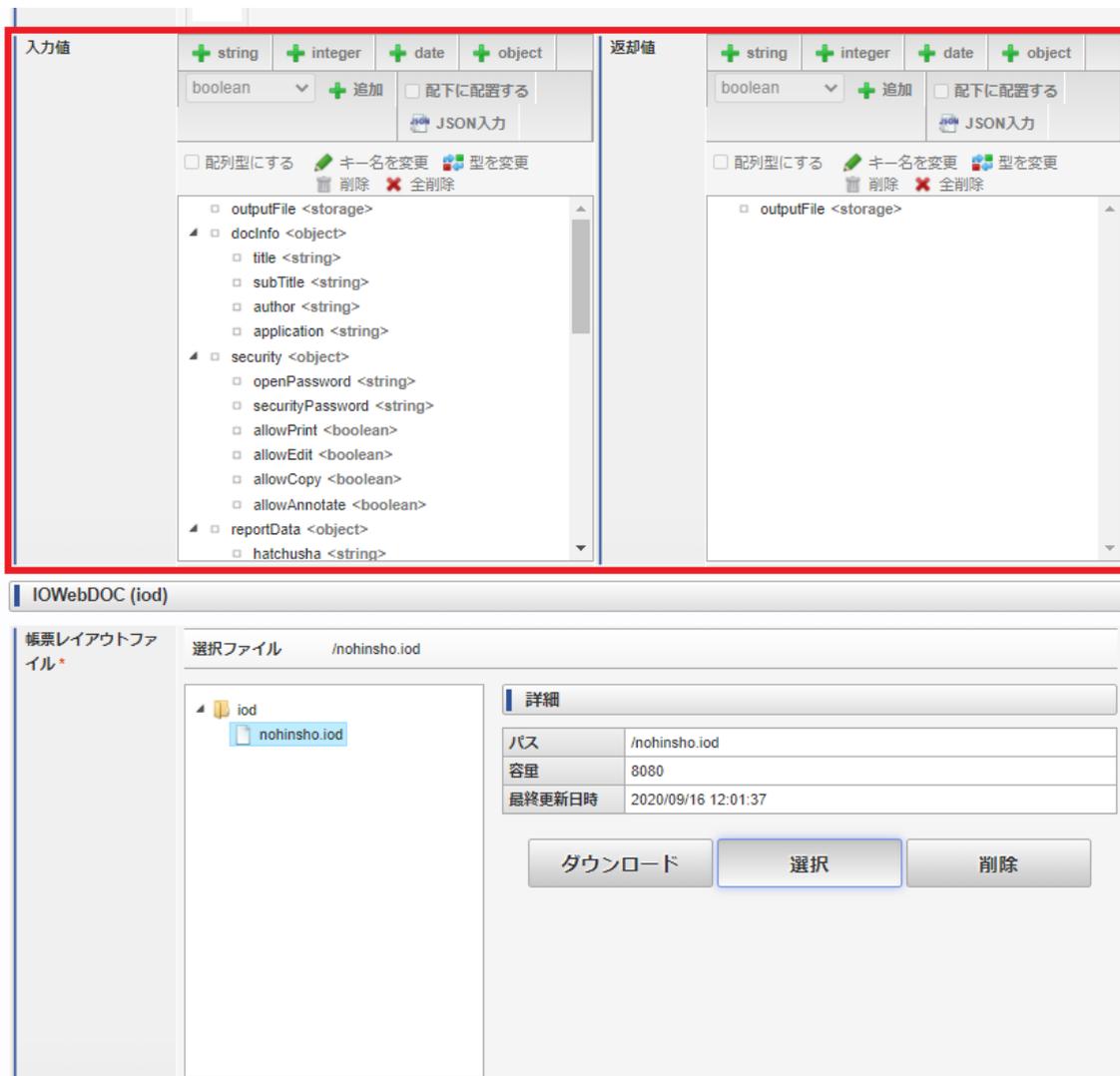
- ディレクトリの作成
- ディレクトリ、および、ファイルの削除
- ファイルのダウンロード

操作方法については、「[その他の操作方法](#)」を参照してください。

4. ファイルツリー上で対象のレイアウトファイルを選択し、「選択」ボタンをクリックします。

選択したレイアウトファイルの「入力値」、および、「返却値」が自動生成されます。



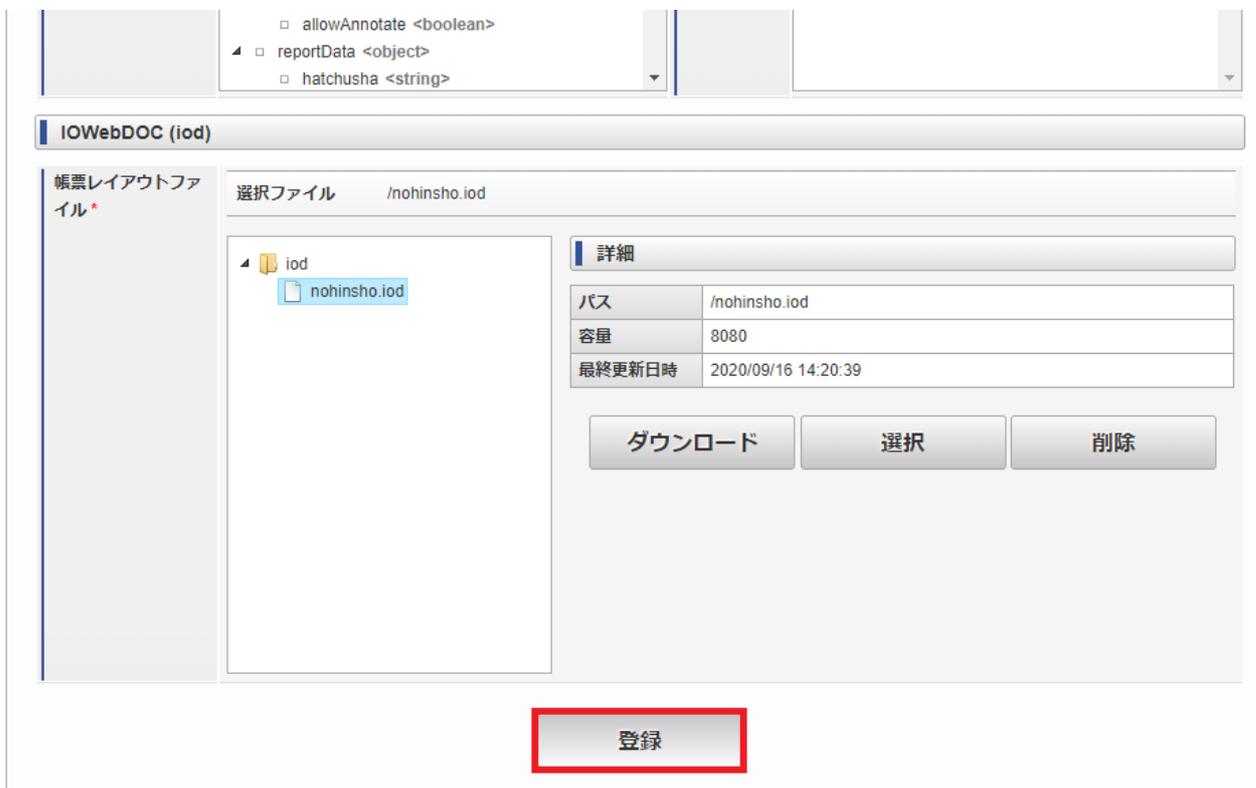


コラム

「入力値」、および、「返却値」の詳細については、次を参照してください。

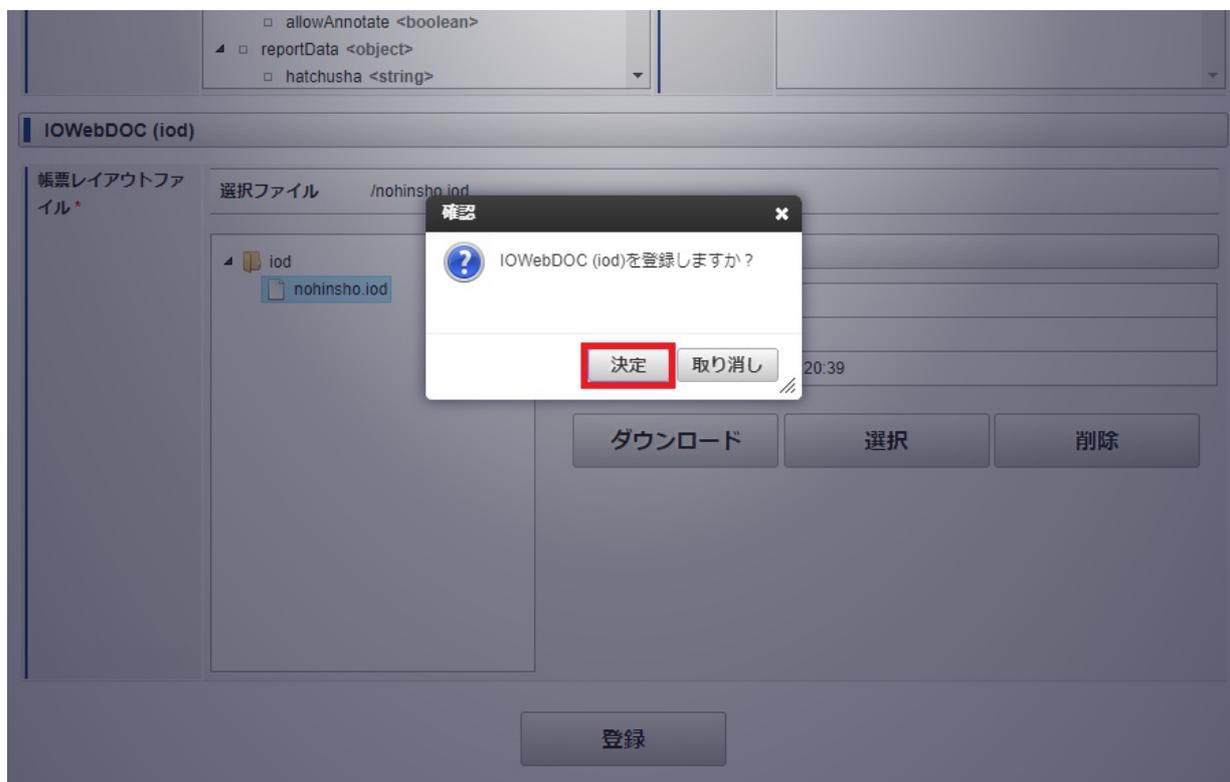
- 「[IOWebDOC \(iod\) 定義](#)」 - 「[入力値](#)」
- 「[IOWebDOC \(iod\) 定義](#)」 - 「[返却値](#)」

5. 「登録」ボタンをクリックします。



6. 確認ダイアログが表示されるので、「決定」ボタンをクリックします。

メッセージが表示され、「ユーザ定義一覧」画面に作成したユーザ定義が追加されます。





IOWebDOC (ddl) 定義 を作成する

新規登録画面を表示する

次の手順で「IOWebDOC (ddl)編集」画面を表示します。

1. 「サイトマップ」 - 「LogicDesigner」 - 「ユーザ定義」 - 「ユーザ定義一覧」をクリックします。
「ユーザ定義一覧」画面が表示されます。

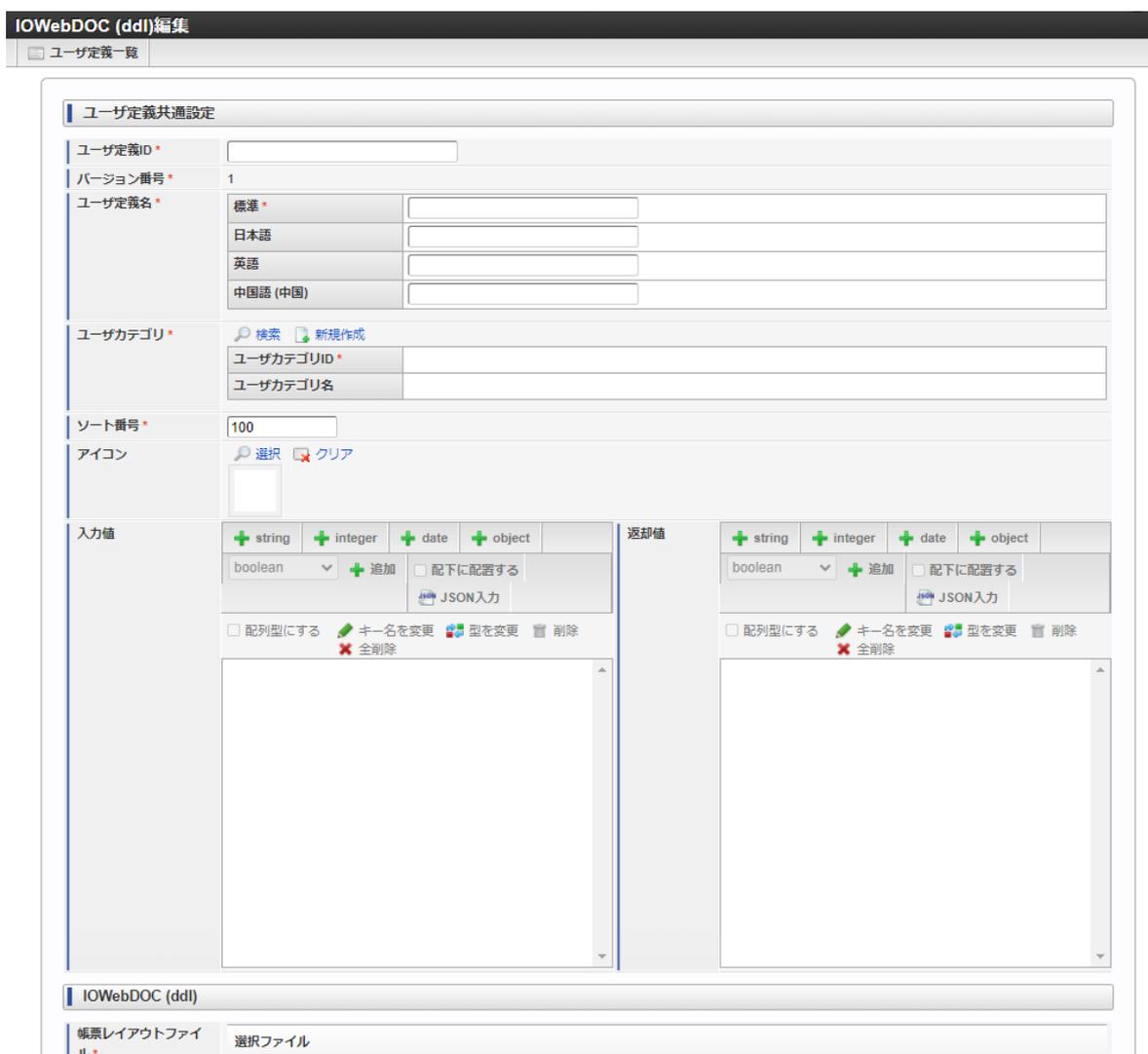


2. ツールバーの「新規作成」をクリックします。作成可能なユーザ定義の一覧が表示されます。



3. 「 IOWebDOC (ddl)定義新規作成 」 をクリックします。

「 IOWebDOC (ddl)編集 」 画面が表示されます。



定義内容を編集する

次の手順で定義内容を編集し、ユーザ定義を登録します。

1. 「ユーザ定義共通設定」の各項目を入力します。

The screenshot shows the 'IOWebDOC (ddl)編集' application window. The main content area is titled 'ユーザ定義共通設定'. It contains several input fields and sections:

- ユーザ定義ID ***: IOWebDOC.ddl
- バージョン番号 ***: 1
- ユーザ定義名 ***: A table with columns for '標準 *', '日本語', '英語', and '中国語(中国)'. Each column has a corresponding text input field.
- ユーザカテゴリ ***: Includes '検索' and '新規作成' icons, and fields for 'ユーザカテゴリID *' (sample) and 'ユーザカテゴリ名' (Sample).
- ソート番号 ***: 100
- アイコン**: Includes '選択' and 'クリア' icons and an empty image box.
- 入力値**: A section with buttons for '+ string', '+ integer', '+ date', '+ object', a 'boolean' dropdown, '+ 追加', and '配下に配置する' checkbox. It also has a 'JSON入力' button and a list area with options for '配列型にする', 'キー名を変更', '型を変更', and '削除'.
- 返却値**: A similar section to '入力値' for return values.

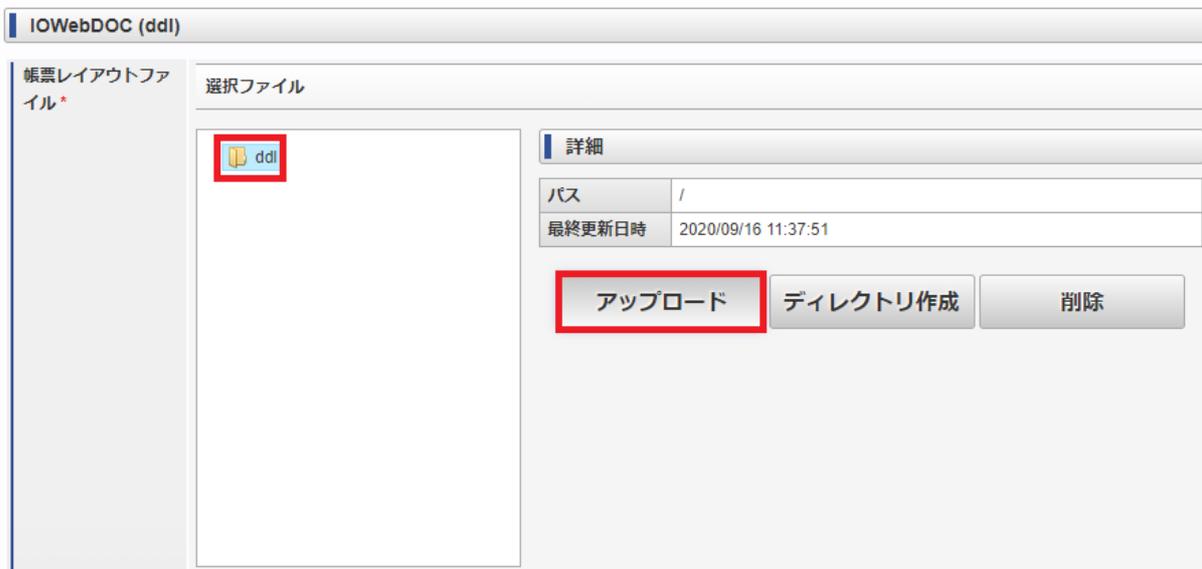


コラム

「入力値」、および、「返却値」は入力できません。レイアウトファイル選択時に自動生成されます。

2. 「IOWebDOC (ddl)」 - 「帳票レイアウトファイル」のファイルツリー上でディレクトリを選択し、「アップロード」ボタンをクリックします。

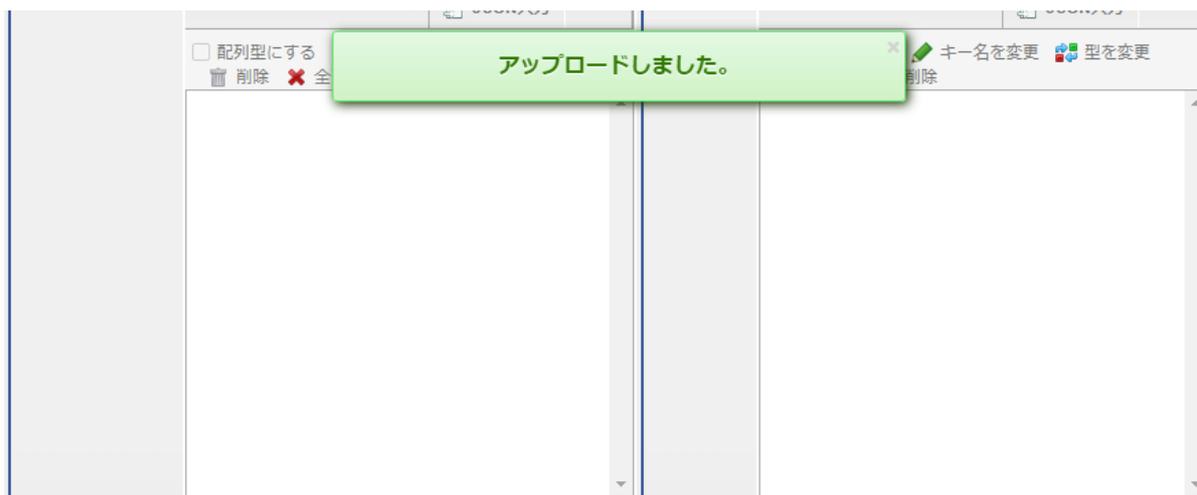
ファイル選択ダイアログが表示されるので、アップロードするファイルを選択します。



コラム

ファイル選択ダイアログで表示されるファイルの種類は .ddl （表形式のレイアウトファイル）のみです。

3. メッセージが表示され、アップロードしたファイルがファイルツリー上に追加されます。



i コラム

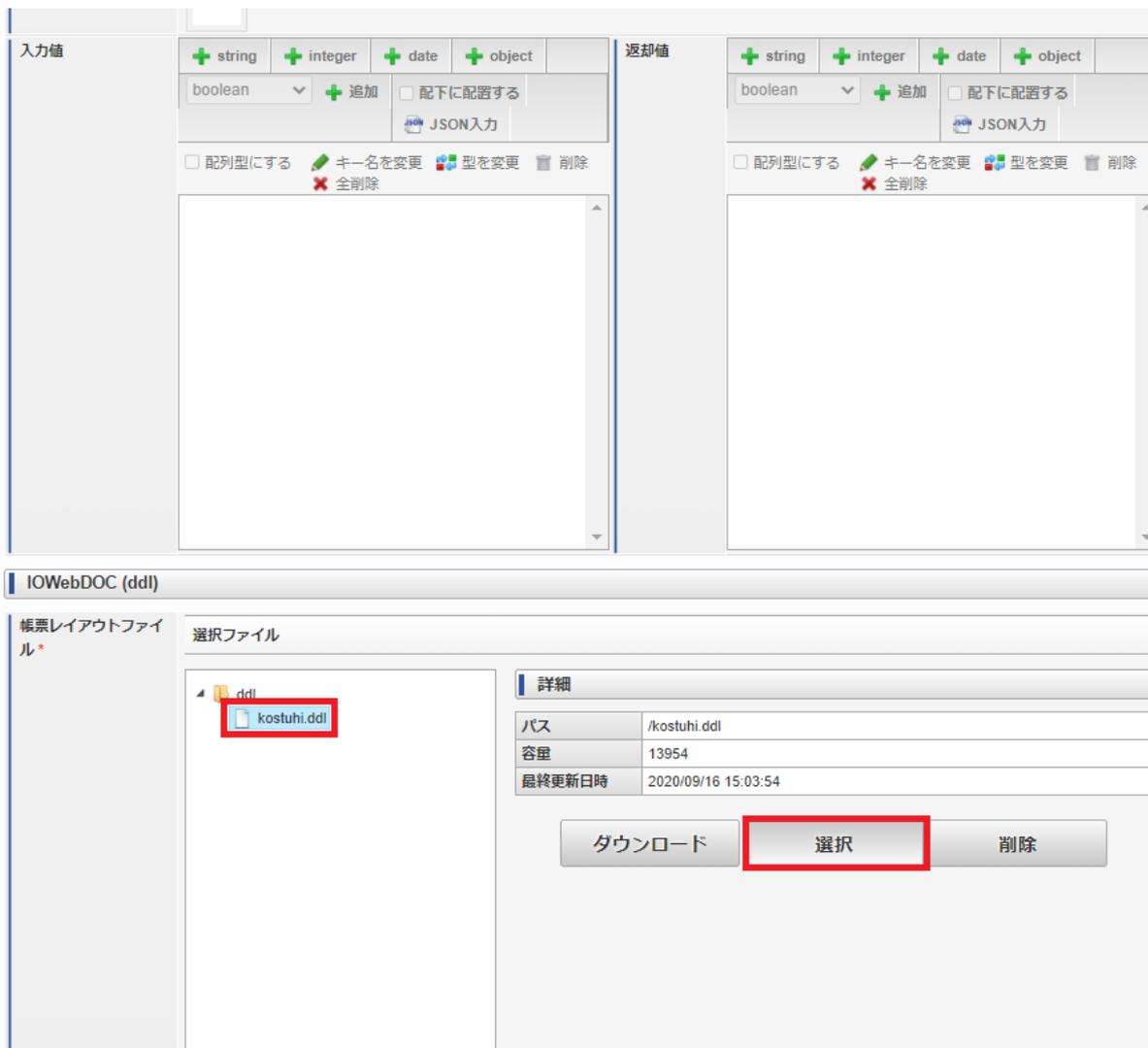
ファイルのアップロード以外に、次の操作が可能です。

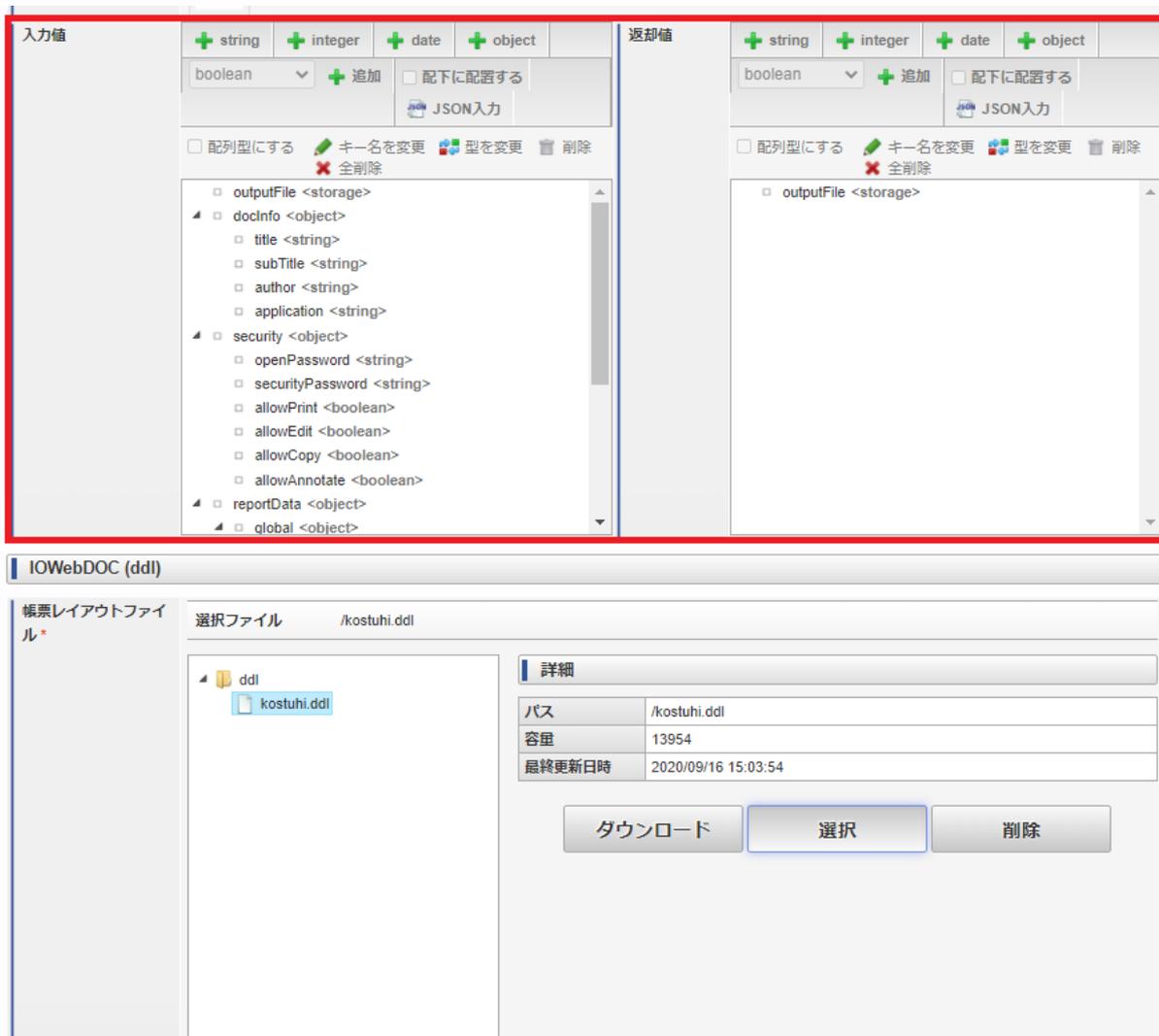
- ディレクトリの作成
- ディレクトリ、および、ファイルの削除
- ファイルのダウンロード

操作方法については、「[その他の操作方法](#)」を参照してください。

4. ファイルツリー上で対象のレイアウトファイルを選択し、「選択」ボタンをクリックします。

選択したレイアウトファイルの「入力値」、および、「返却値」が自動生成されます。



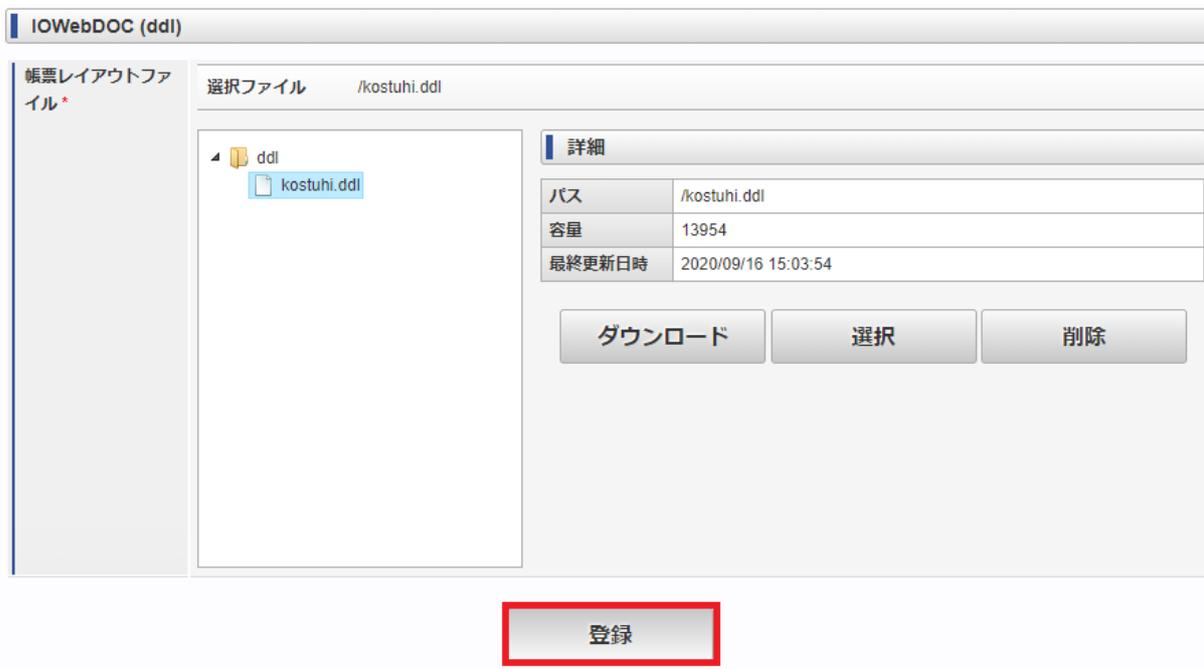


コラム

「入力値」、および、「返却値」の詳細については、次を参照してください。

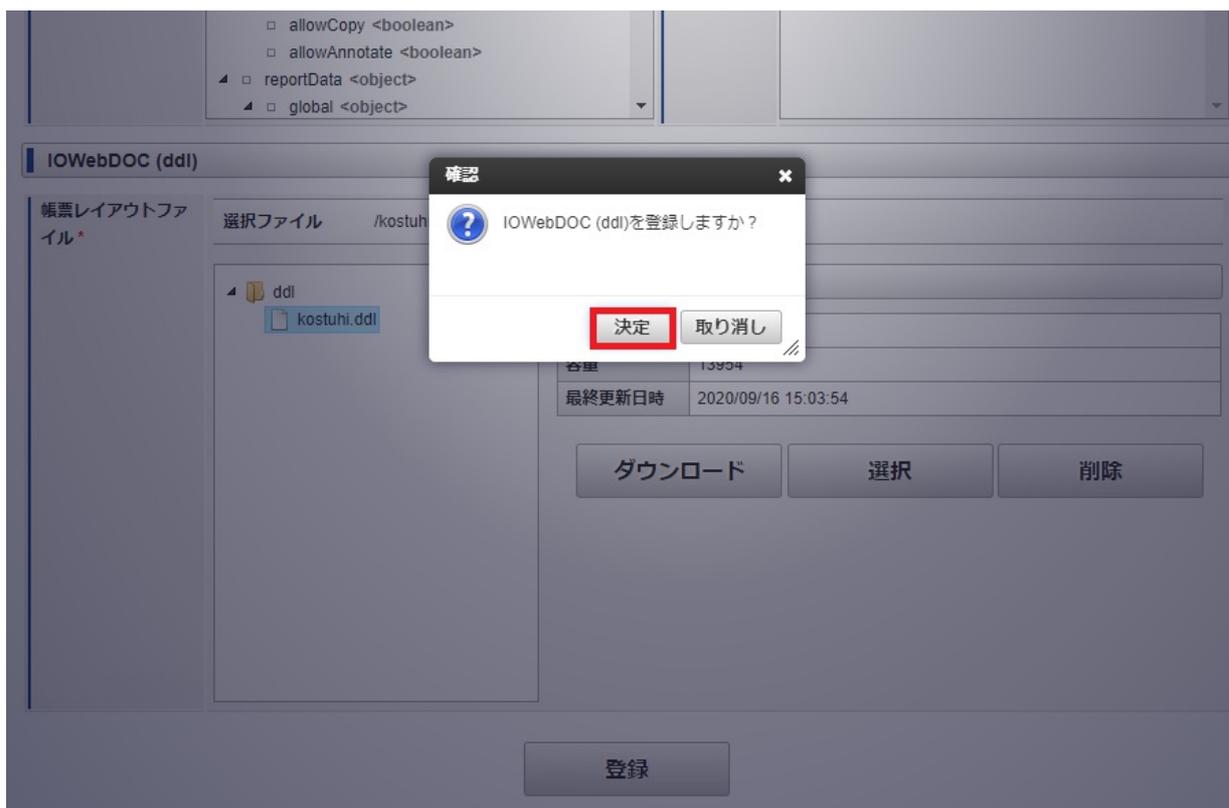
- 「IOWebDOC (ddl) 定義」 - 「入力値」
- 「IOWebDOC (ddl) 定義」 - 「返却値」

5. 「登録」ボタンをクリックします。



6. 確認ダイアログが表示されるので、「決定」ボタンをクリックします。

メッセージが表示され、「ユーザ定義一覧」画面に作成したユーザ定義が追加されます。



編集	ユーザ定義ID	ユーザ定義名	種別	ユーザカテゴリ	呼出元
	IOWebDOC.ddl	IOWebDOC (ddl)定義	pdfd_ddl	Sample	
	sample.1	sample.1	pdfd_iod	Sample	
	sample.2	sample.2	pdfd_ddl	Sample	

FullPack版 IM-LogicDesigner 連携 を利用したロジックフロー定義の作成方法について示します。



コラム

ロジックフロー定義の詳細については、「[IM-LogicDesigner ユーザ操作ガイド](#)」 - 「[ロジックフロー定義](#)」を参照してください。

- ユーザ定義タスクを配置する
- マッピングの設定を行う
 - 出力ファイル
 - 文書情報
 - セキュリティ情報
 - 帳票データ
 - IOWebDOC (iod) 定義
 - IOWebDOC (ddl) 定義

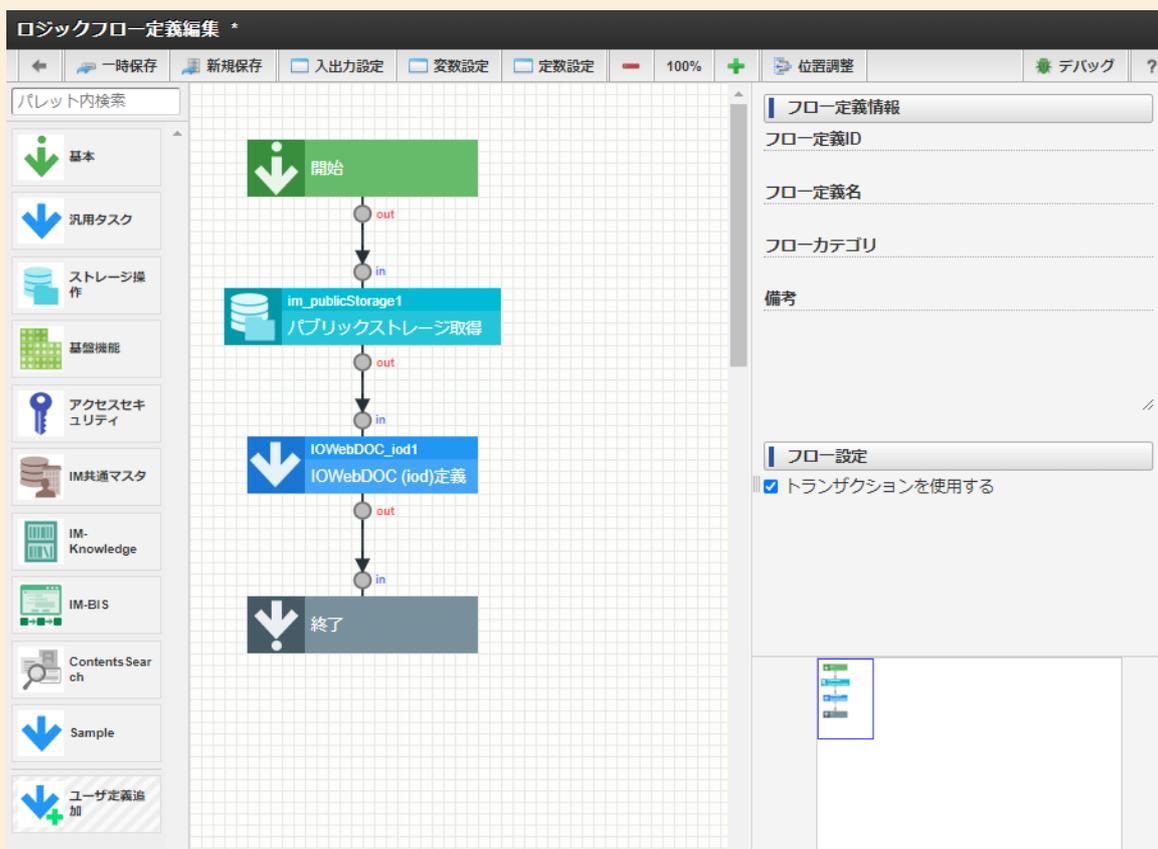
ユーザ定義タスクを配置する

「ロジックフロー定義編集」画面を開き、作成した IOWebDOC (iod) 定義、または、 IOWebDOC (ddl) 定義のタスクを配置し、ロジックフロー定義を作成します。



注意

IOWebDOC (iod) 定義、および、IOWebDOC (ddl) 定義 の出力ファイルを表す入力値「outputFile」はstorage型です。IOWebDOC (iod) 定義、および、IOWebDOC (ddl) 定義 のタスクより先にストレージ操作タスクを配置し、マッピング元を取得してください。



ストレージ操作タスクの詳細については、「IM-LogicDesigner仕様書」-「ストレージ操作」を参照してください。

マッピングの設定を行う

IOWebDOC (iod) 定義、または、IOWebDOC (ddl) 定義 のタスクで「マッピング設定」画面を開き、入力値のマッピングの設定を行います。

出力ファイル、文書情報、および、セキュリティ情報は共通で、帳票データのマッピング設定のみ IOWebDOC (iod) 定義 と IOWebDOC (ddl) 定義 とで設定内容が異なります。

また、マッピングの設定を行う前に「入出力設定」画面で入出力設定を行ってください。



コラム

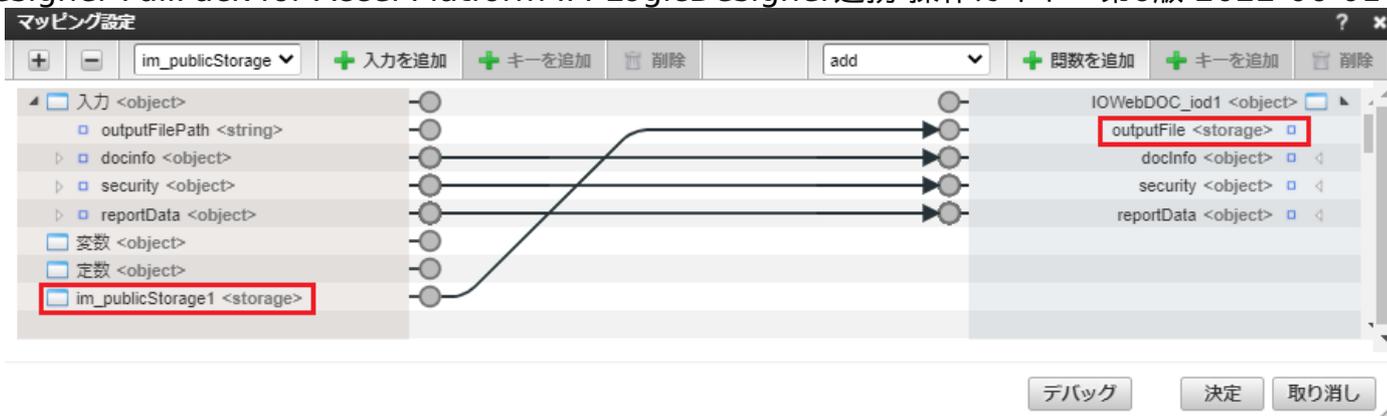
入力値の詳細については、次を参照してください。

- 「IOWebDOC (iod) 定義」-「入力値」
- 「IOWebDOC (ddl) 定義」-「入力値」

出力ファイル

出力ファイルを表す入力値は「outputFile」です。

「outputFile」は必須のプロパティです。必ずマッピングしてください。



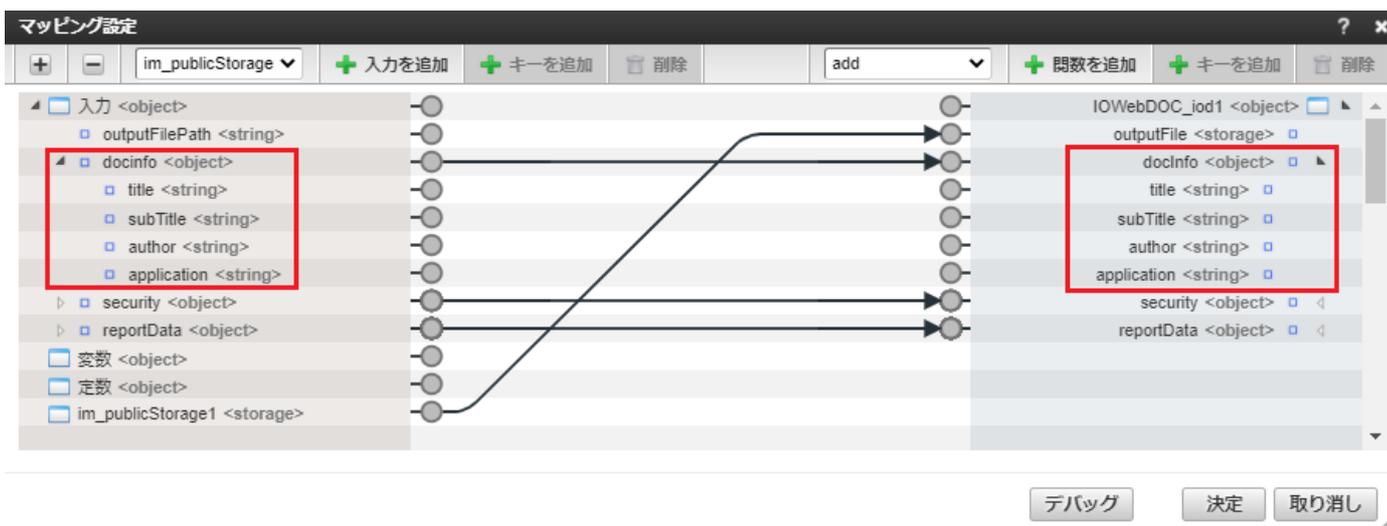
注意

「outputFile」はstorage型です。IOWebDOC (iod) 定義、および、IOWebDOC (ddl) 定義のタスクより先にストレージ操作タスクを配置し、マッピング元を取得してください。

文書情報

PDF帳票の文書情報を表す入力値は「docInfo」です。

「docInfo」は任意のプロパティです。



コラム

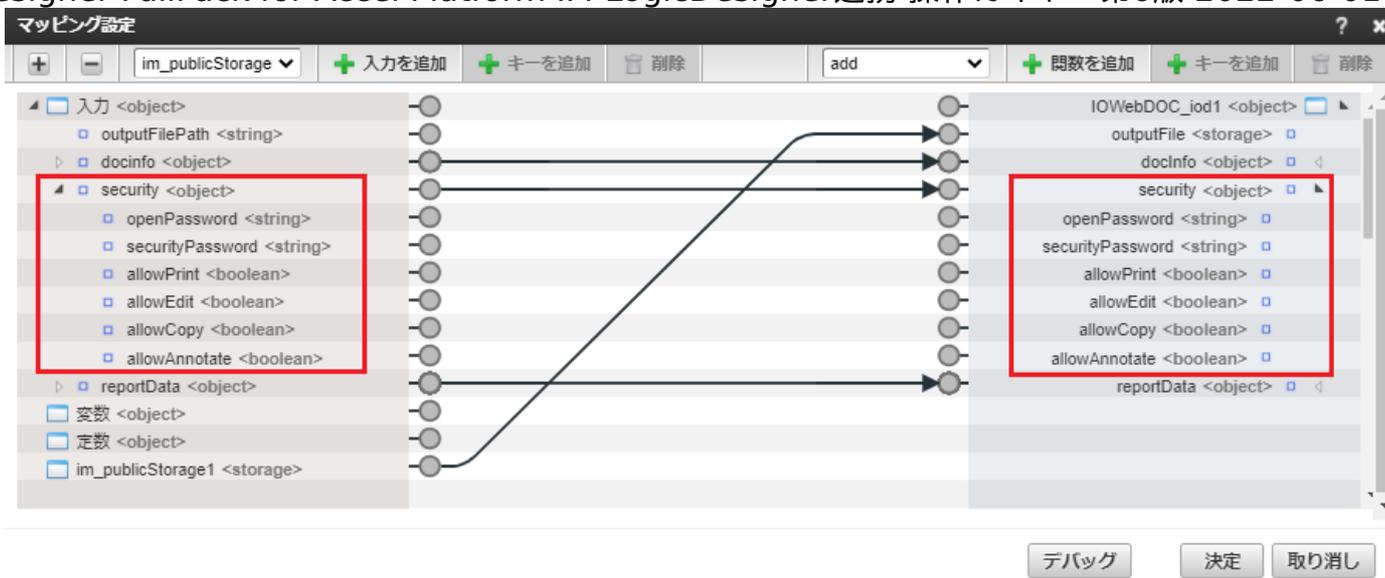
「docInfo」自体をマッピングしない場合、出力されるPDF帳票の全ての文書情報は空になります。

「docInfo」配下のプロパティを個別でマッピングした場合、マッピングしていない対象の文書情報は空になります。

セキュリティ情報

PDF帳票のセキュリティ情報を表す入力値は「security」です。

「security」は任意のプロパティです。



コラム

「security」自体をマッピングしない場合、出力されるPDF帳票にセキュリティは付与されません。

「security」配下のプロパティを個別でマッピングする場合、マッピング設定は次の通りです。

- 文書を開くパスワードを表す入力値「security.openPassword」をマッピングしない場合、出力されるPDF帳票に文書を開くパスワードは付与されません。
- 文書を開くパスワードを表す入力値「security.openPassword」、および、セキュリティパスワードを表す入力値「security.securityPassword」をマッピングしない場合、他の項目でセキュリティを付与するようにデータが設定されていても、出力されるPDF帳票にセキュリティは付与されません。

注意

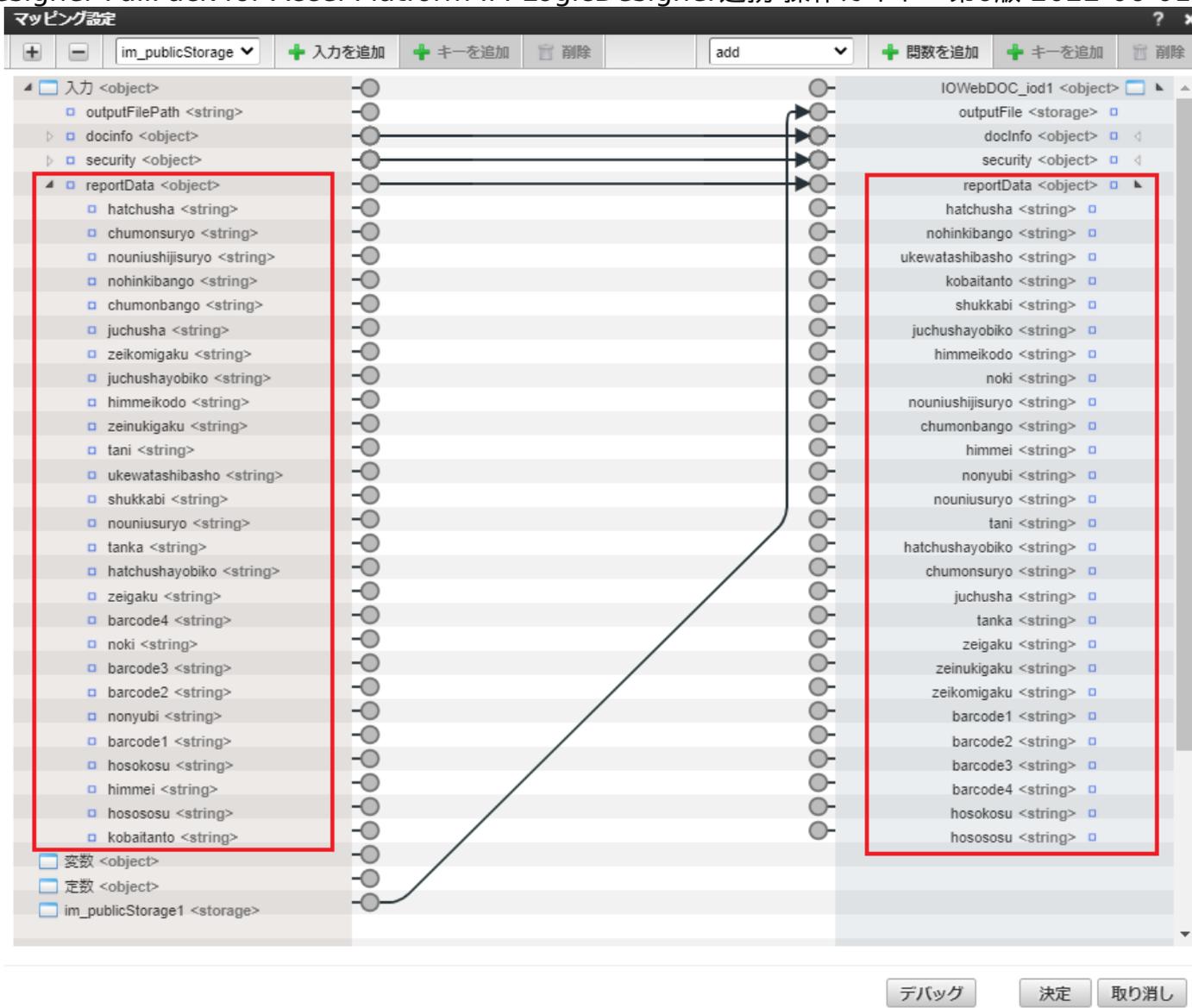
文書を開くパスワードを表す入力値「security.openPassword」、および、セキュリティパスワードを表す入力値「security.securityPassword」にマッピングされているデータが空の場合、他の項目でセキュリティを付与するようにデータが設定されていても、出力されるPDF帳票にセキュリティは付与されません。

帳票データ

IOWebDOC (iod) 定義

帳票データを表す入力値は「reportData」です。

「reportData」は任意のプロパティです。



コラム

「reportData」自体をマッピングしない場合、出力されるPDF帳票の全ての帳票データは空になります。

「reportData」配下のプロパティを個別でマッピングした場合、マッピングしていない対象の帳票データは空になります。

IOWebDOC (ddl) 定義

帳票データを表す入力値は「reportData」です。

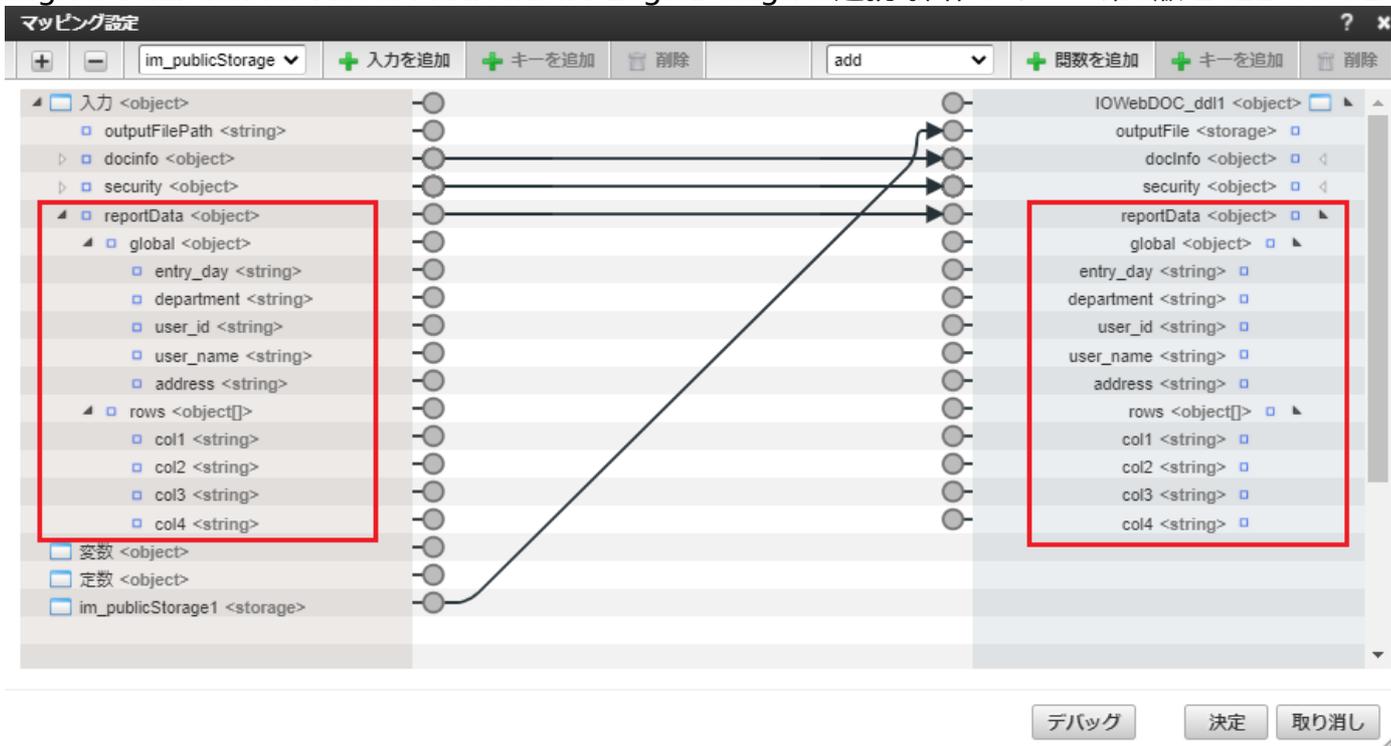
- 外部変数（ヘッダーやフッターのデータ）を表す入力値は「reportData.global」です。

「reportData.global」は任意です。

- 行データを表す入力値は「reportData.rows」です。

行のカラムデータを表す入力値は「reportData.rows.col」です。

「reportData.rows」、および、「reportData.rows.col」は必須です。必ずマッピングしてください。



コラム

「reportData.global」自体をマッピングしない場合、出力されるPDF帳票の全ての外部変数は空になります。

「reportData.global」配下のプロパティを個別でマッピングした場合、マッピングしていない対象の外部変数は空になります。

注意

次のケースは、フロー実行時にエラーが発生します。

- 「reportData」自体がマッピングされていない場合
- 「reportData.rows」がマッピングされていない場合
- 「reportData.rows」にマッピングされているデータが空の配列の場合
- 「reportData.rows.col」の一部がマッピングされていない場合

「reportData.rows.col」は全てマッピングする必要があります。

次のような場合、「col3」とマッピングしていないため、エラーが発生します。

```
source <object[]>    reportData.rows <object[]>
value1 <string> -----> col1 <string>
value2 <string> -----> col2 <string>
                           col3 <string>
```

ユーザ定義タスク

IOWebDOC (iod) 定義

入力値

```
outputFile <storage> *
docInfo <object>
├ title <string>
├ subTitle <string>
├ author <string>
└ application <string>
security <object>
├ openPassword <string>
├ securityPassword <string>
├ allowPrint <boolean>
├ allowEdit <boolean>
├ allowCopy <boolean>
└ allowAnnotate <boolean>
reportData <object>
├ id <storage、または、string>
...
```

項目名	必須/任意	型	配列/リスト	説明
outputFile	必須	storage	なし	出力ファイル 必ずマッピングしてください。
docInfo	任意	object	なし	文書情報
title	任意	string	なし	タイトル
subTitle	任意	string	なし	サブタイトル
author	任意	string	なし	作成者
application	任意	string	なし	アプリケーション
security	任意	object	なし	セキュリティ
openPassword	任意	string	なし	文書を開くパスワード
securityPassword	任意	string	なし	セキュリティパスワード
allowPrint	任意	boolean	なし	true : 印刷を許可する false : 印刷を許可しない
allowEdit	任意	boolean	なし	true : 編集を許可する false : 編集を許可しない
allowCopy	任意	boolean	なし	true : 転載を許可する false : 転載を許可しない
allowAnnotate	任意	boolean	なし	true : 注釈追加・変更を許可する false : 注釈追加・変更を許可しない

項目名	必須/任意	型	配列/リスト	説明
reportData	任意	object	なし	帳票データ
id	任意	storage 、また は、 string	なし	帳票項目 このプロパティは帳票レイアウトの識別子毎に生成され、識別子名が項目名になります。 帳票項目がイメージボックスの場合は storage、イメージボックス以外の場合は string になります。

返却値

```
outputFile <storage>
```

項目名	型	配列/リスト	説明
outputFile	storage	なし	出力ファイル

IOWebDOC (ddl) 定義

入力値

```
outputFile <storage> *
docInfo <object>
├ title <string>
├ subTitle <string>
├ author <string>
└ application <string>
security <object>
├ openPassword <string>
├ securityPassword <string>
├ allowPrint <boolean>
├ allowEdit <boolean>
├ allowCopy <boolean>
└ allowAnnotate <boolean>
reportData <object>
├ global <object>
│   └ id <string>
│   ...
└ rows <object[]> *
    └ col <string> *
        ...
```

項目名	必須/任意	型	配列/リスト	説明
outputFile	必須	storage	なし	出力ファイル 必ずマッピングしてください。
docInfo	任意	object	なし	文書情報
title	任意	string	なし	タイトル

項目名	必須/任意	型	配列/リスト	説明
subTitle	任意	string	なし	サブタイトル
author	任意	string	なし	作成者
application	任意	string	なし	アプリケーション
security	任意	object	なし	セキュリティ
openPassword	任意	string	なし	文書を開くパスワード
securityPassword	任意	string	なし	セキュリティパスワード
allowPrint	任意	boolean	なし	true : 印刷を許可する false : 印刷を許可しない
allowEdit	任意	boolean	なし	true : 編集を許可する false : 編集を許可しない
allowCopy	任意	boolean	なし	true : 転載を許可する false : 転載を許可しない
allowAnnotate	任意	boolean	なし	true : 注釈追加・変更を許可する false : 注釈追加・変更を許可しない
reportData	任意	object	なし	帳票データ
global	任意	object	なし	外部変数データ
id	任意	string	なし	外部変数の帳票項目 このプロパティは帳票レイアウトの外部変数毎に生成され、外部変数名が項目名になります。
rows	必須	object	配列	行データ 必ず1行以上のデータをマッピングしてください。
col	必須	string	なし	行の列データ このプロパティは表の列の数だけ生成されます。例えば、表が5列で構成されている場合、「col1」から「col5」まで生成されます。 必ず全てのプロパティをマッピングしてください。



注意

「reportData.global.id」、および、「reportData.rows.col」に画像ファイルを指定する場合、絶対パスで指定してください。

返却値

outputFile <storage>

項目名	型	配列/リスト	説明
outputFile	storage	なし	出力ファイル

その他の操作方法

「IOWebDOC (iod)編集」画面、および、「IOWebDOC (ddl)編集」画面でのアップロード以外の操作方法を示します。

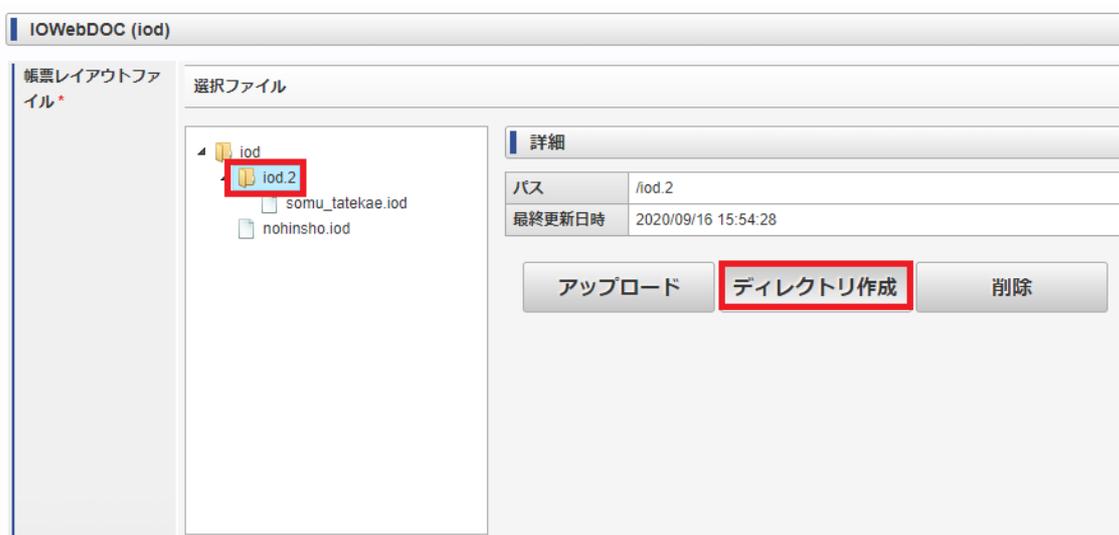


コラム

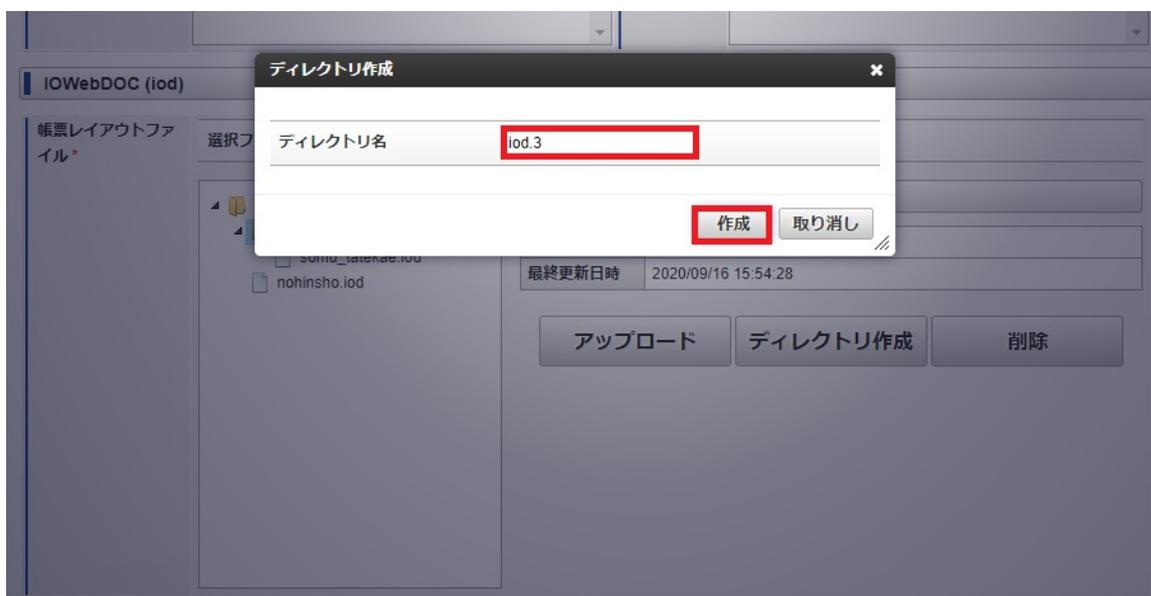
ファイルの拡張子は IOWebDOC (iod) 定義 と IOWebDOC (ddl) 定義 とで異なりますが、操作方法としては同じです。

ディレクトリの作成

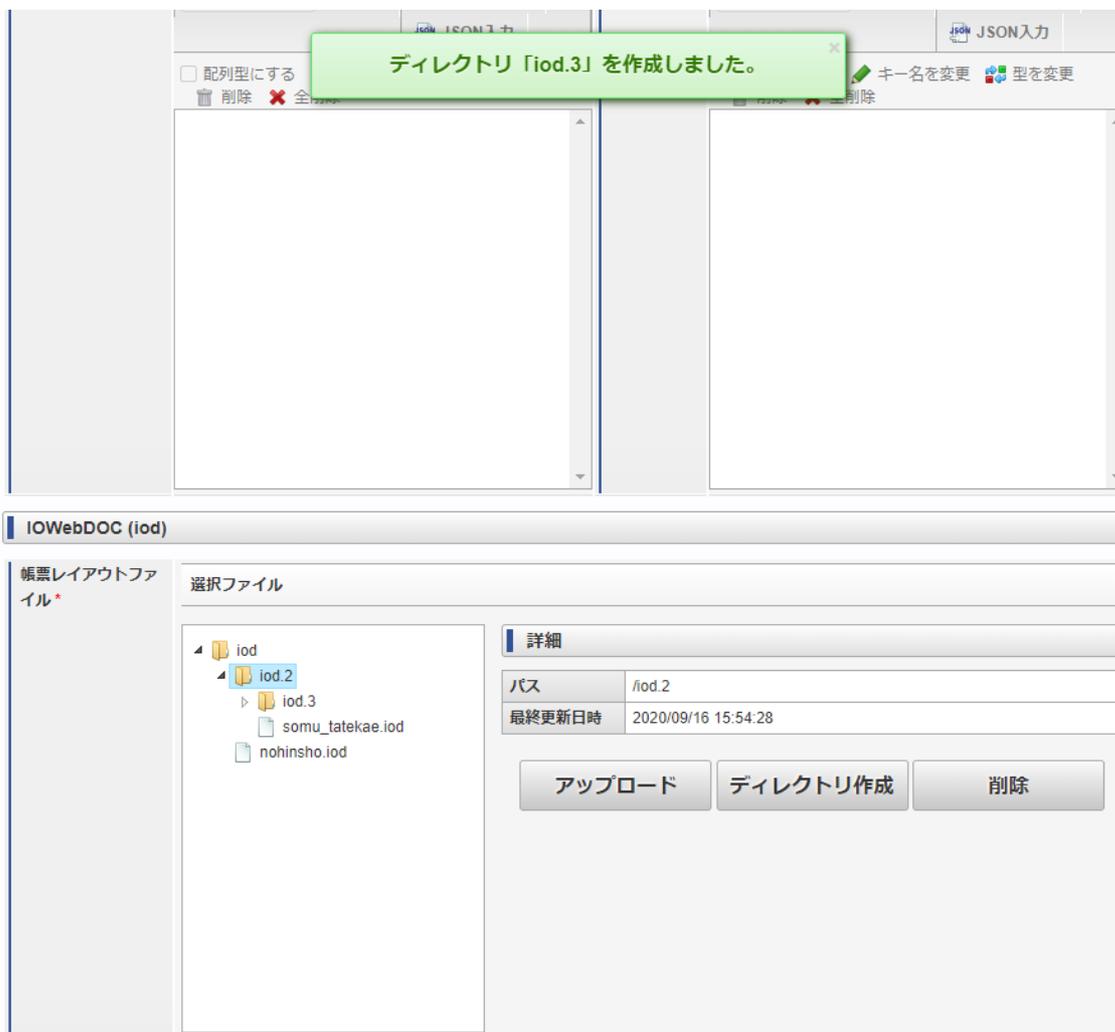
1. 「IOWebDOC (iod)」 - 「帳票レイアウトファイル」のファイルツリー上で、新規作成するディレクトリの親ディレクトリを選択し、「ディレクトリ作成」ボタンをクリックします。



2. ディレクトリ作成ダイアログが表示されるので、ディレクトリ名を入力し、「作成」ボタンをクリックします。



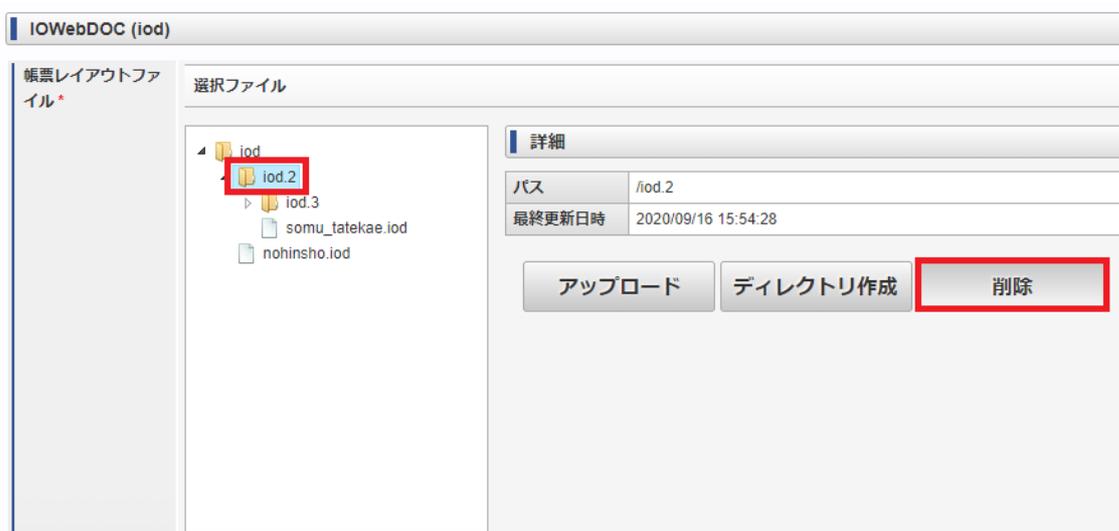
3. メッセージが表示され、ファイルツリー上で選択していた親ディレクトリの配下に、作成したディレクトリが



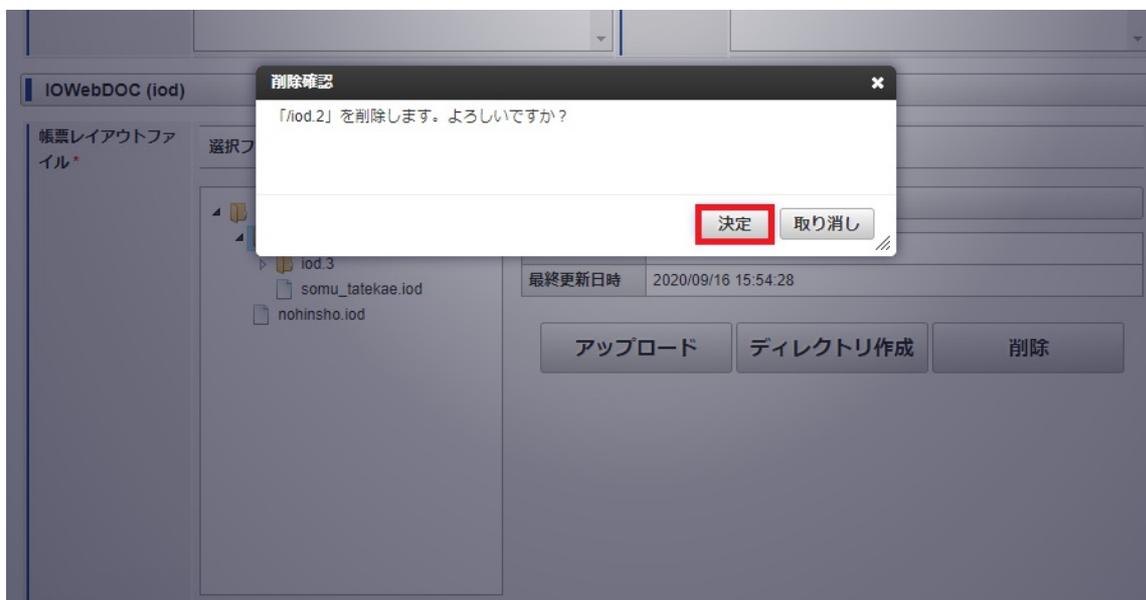
ディレクトリ、および、ファイルの削除

1. 「IOWebDOC (iod)」 - 「帳票レイアウトファイル」のファイルツリー上で削除するディレクトリ、および、ファイルを選択し、「削除」ボタンをクリックします。

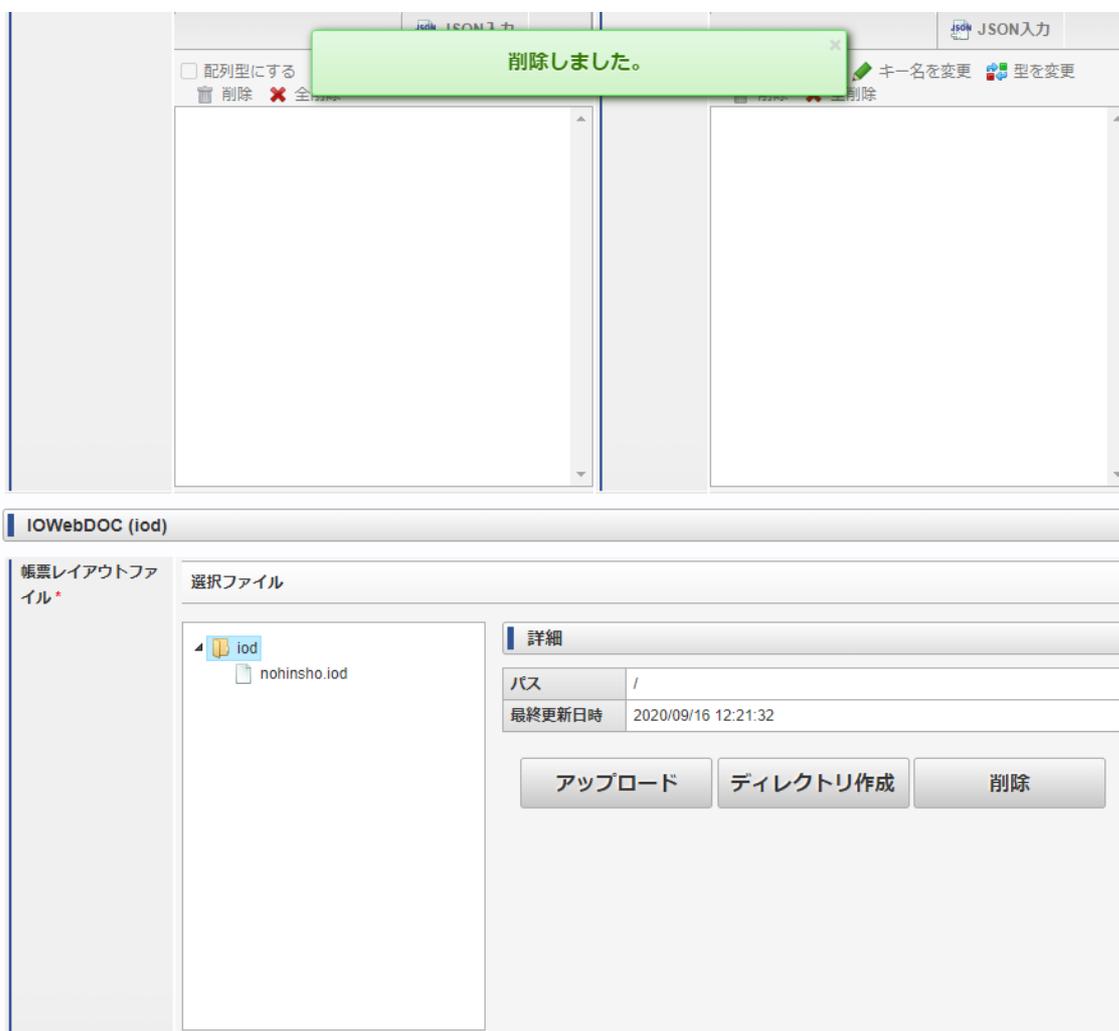
次の例は、ディレクトリを削除する場合は。



2. 削除確認ダイアログが表示されるので、「決定」ボタンをクリックします。



3. メッセージが表示され、ファイルツリー上で選択していたディレクトリ、および、ファイルが削除されます。

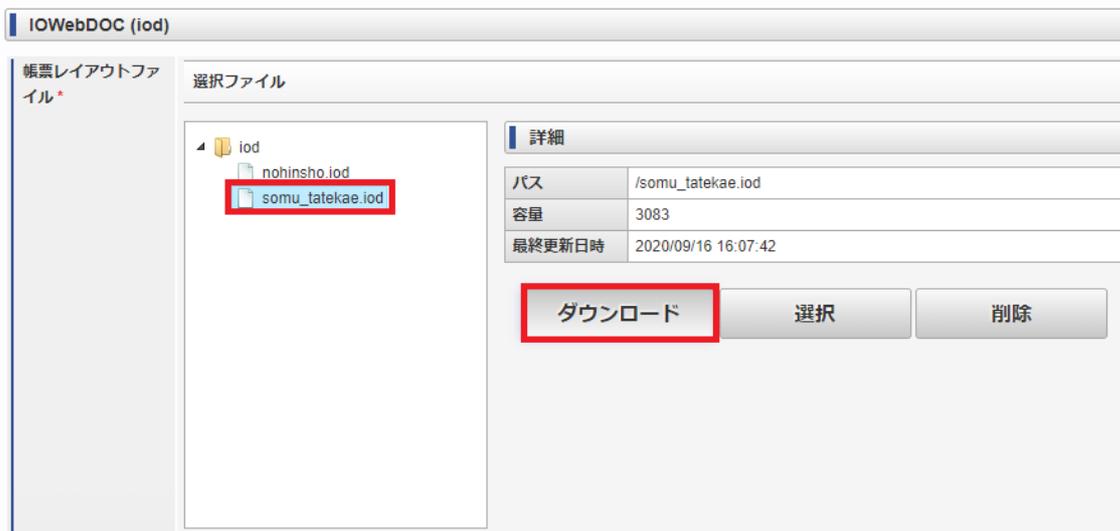


コラム

ディレクトリを削除した場合、削除対象のディレクトリ配下にあるディレクトリ、および、ファイルも削除されます。

ファイルのダウンロード

1. 「IOWebDOC (iod)」 - 「帳票レイアウトファイル」のファイルツリー上でダウンロードするファイルを選択



2. 選択したファイルがダウンロードされます。

